

#### 1. この会社が目指す姿が理解できるか

シャッター業界から入った三和ホールディングスだが徐々に多品種化を進めており売り上げのうち非シャッターの占める割合が高まっている。さらにはグローバル化やサービス業の拡大などの多角化の動きは評価できるといえる。また、ESG マテリアリティの観点からも計画が述べられており、これらの点においては会社の目指す姿が明確に記されている。一方、少なくとも日本ではもうしばらく続いていくと思われるコロナの影響に対してコストダウンという手段で対応していることが読み取れるが、コロナの影響の緩和のための持続的な計画がやや不足しているといえる。

#### 2. この会社の競争優位性が理解できるか

シャッターやドアなどにおいて国内トップシェアを獲得していることや開発から施工・アフターサービスまでの一貫したビジネスモデルがあることは強みであることが読み取れる。また、防災用品などの多品種化も進めており、様々な側面において価値を提供している。さらには北米などの海外でも高い市場シェアを誇っている。

#### 3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

現時点においてはシャッター業界で国内外を問わず高いシェアを誇っているなど競争優位性があるといえる。この業界においてはシェア率を維持していくことは推測できるが、今後鋼材やその他資源の価格高騰により原価が上がり収益の悪化の可能性があることや先進技術の開発やサービスの競争力低下といったリスクも挙げられる。また非シャッターの割合に関しても、売上で見ればその割合は決して多くないが、統合報告書内にある営業利益の比較をしてみると依然としてシャッター・ドア業への依存度が高いことが見受けられるため、三和ホールディングスが強調している多品種化を今以上に進めていくべきであるといえる。

#### 4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

三和ホールディングスは国内だけでなく特に北米といった海外でも高い売り上げを誇る会社であり、さらなるグローバル化を目指していることから三和ホールディングスで働くことは人的資本の価値向上につながると考えられる。また、現在三和ホールディングスはシャッター・ドア業への依存を減らそうとしており、そうした環境においては新たな事業への取り組みが重要となる。こうした新規事業への挑戦が求められる環境は創造力をはじめ

とした様々な能力が向上しやすいものであるといえるため魅力的な物であるといえる。

#### **5. 報告書にはどのような改善余地があるか**

財務データに関して言えば収益性や資本効率などの項目がそれぞれ 5 年ずつ掲載されているが、これが 10 年以上掲載されているとより企業の状態の変化について理解できる世になると考えられる。また三和ホールディングスの抱えている課題の特性から、商品別の売上高構成比を当年度分のみ掲載するのではなく、これもまた数年分掲載することで多角化の進捗が把握しやすくなるといえる。さらに従業員が働きやすくなるための取り組みについて述べられていたが従業員を対象としたアンケートといった調査などがあるとより信頼性の高いものになると考えられる。